

令和4年11月 8日

大山町議会議長 米本隆記様

大山町議会議員 西本 憲人

令和4年大山町議会議員研修報告書

1	日時	令和4年10月28日(金)	
2	研修地	倉吉未来中心 大ホール・鳥取短期大学 大講義室	
3	研修内容	(内容)	(場所)
		分科会1 SDGs 未来創造コンテスト ～高校生が夢をかなえる第1歩～	助言者:上野千鶴子 米谷正児
		分科会6 子どもの権利 障害のあるなしに関わらず 共に学ぶ 共に育つ	講師:木村泰子
4	研修結果 又は概要 (意見・感想)	分科会1 SDGs 未来創造コンテスト  高校生7チームが自分達で考えたSDGsを発表するコンテスト。 助言者のお2人がすごく的確なアドバイスをしているのが印象的であった。特に上野千鶴子さんの助言はかなり手厳しいものもあったが、内容としてはごもつともと思うものばかりで、これから社会に出る高校生にはいい刺激になったと感じた。 発表チームの中では、【チーム青パイヤ】倉吉農業高校の発表が素晴らしかった。仮説、実証実験と先輩の代から引き継ぎ、実際に耕作放棄地を埋めてくためになぜ青パイヤが優れているかということを実践を交えて行っていたプレゼンには本当に高校生かと驚かされた。	
		分科会6 子どもの権利  かねてより興味があった『みんなの学校』大空小学校の元校長としての素晴らしい講演会であった。 学校の公教育とは、パブリックとは何かということを校長時代考え、最低限の子どもの権利を守ることを徹底してやってきた先生であった。  パブリックの学校理念 最上位の目標は 全ての子どもの学習権を保障する というシンプルなもの。	

校長の仕事は山ほどある。仕事ができなくて怒られても、謝れば済む。しかし、学校に来ていない、来れない子どもがいたり、一人の子どもが死んでしまったら、謝ってもすまない。

子どもが学校に来れないことは最終的には校長に全責任がある。  
学校に来てくれなかったら、自分達は無能なんです。

とてもストレートで、本当に公教育かと耳を疑うような、信念に基づいた教育を実際行って、その学校には障害を持っている子、部落差別を受けている子、授業中に外で走り回っている子全ての子が同じ学校で同じように授業を受けている。

その場を作り出した元校長の話はわかりやすく。教育者とはこうであってほしいと感動する内容であった。